

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																						
大阪総合デザイン専門学校	昭和55年3月31日	丸岡 宏次	〒530-0012 大阪市北区芝田2-8-35 (電話) 06-6376-2100																						
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																						
学校法人上田学園	昭和57年3月31日	上田 哲也	〒530-0012 大阪市北区芝田2-5-8 (電話) 06-6371-2022																						
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																					
文化・教養	デザイン専門課程	漫画学科	平成9年文部科学省 告示第184号	-																					
学科の目的	漫画制作を中心とし、将来的にプロとして活躍出来る人材の育成を目的とする。 漫画を創作する上での意識・知識・能力等の底上げを図り、将来に向け可能性を繋いでいく事が重要と考える。																								
認定年月日	平成30年2月27日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
	2年 屋間		1920時間	-	1920時間	-	-	-																	
単位時間																									
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
60人	17人	7人	6人	6人	12人																				
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率、課題提出率、課題内容を総合評価																					
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月7日 ■学年末:3月20日～3月31日		卒業・進級 条件	課題・試験等に合格し、本校所定の課程を修了すること																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 前期、後期に担任との個別カウンセリング 長期欠席者等には、保護者との面談、補習		課外活動	■課外活動の種類 コンペ、講演会への参加 出版社への作品持ち込み ■サークル活動: 有																					
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 漫画家のアシスタント		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)																					
	■就職指導内容 就職ガイダンス、就活支援セミナー、企業へのプレゼン 履歴書添削、文章作成力、個別相談、集団支援(就活倶楽部)			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数														
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
■卒業生数		33	人	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																					
■就職希望者数		18	人	■自由記述欄 ・漫画雑誌デビュー、連載 4名 ・新人漫画賞 受賞 4名 ・WEB漫画連載 1名																					
■就職者数		11	人																						
■就職率		61	%																						
■卒業者に占める就職者の割合		33	%																						
■その他																									
(令和元年度卒業者に関する 令和2年5月1日時点の情報)																									
中途退学の 現状	■中途退学者 8 名		■中退率 15 %		平成31年4月1日時点において、在学者61名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者53名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の本理由 体調不良、不登校、経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 個別カウンセリング(担任及び臨床心理士)、補習授業																				
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・特別学費減免支援制度・成績優秀者特待制度・入学金免除制度・自宅外通学奨学生制度・上田学園特別制度・上田学園兄弟姉妹入学制度 ・留学生支援制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																								
当該学科の ホームページ URL	URL: http://www.oscd.jp																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携した実習・演習授業の内容が当該学科の教育目標達成に資するものとなるように学習課題の内容を精査し、科目間の連携や授業時間配分等を考慮しつつ実習・演習授業を構成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

校長を委員長とした教育課程編成委員会を企業等の委員、校長、副校長、教務部長、各学科長、事務統括によって組織する。年間5～6回実施する学科会議(授業を担当する専任教員・兼任教員で組織)の上部に位置し、学科会議での意見、検討事項を吸い上げ、それに対し企業・業界の有識者の方々より意見を聴取、審議。委員会で審議した事項のうち、授業内容、指導方法等は学科会議で、カリキュラム編成については教務部会議で協議し、教育課程を編成する。また改善点等については教育課程編成委員会で報告する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
西野 昌克	近畿大学 文芸学部 文化デザイン学科 教授	令和2年6月28日～ 令和4年6月27日 2年(再任あり)	②
大石 普人	株式会社オオイシヒロト 代表取締役社長	平成30年10月16日～ 令和2年10月15日 2年(再任あり)	③
丸岡 宏次	大阪総合デザイン専門学校 校長		
原田 明彦	大阪総合デザイン専門学校 副校長		
水田 孝彦	大阪総合デザイン専門学校 漫画学科学科長		
嶺 寿美江	大阪総合デザイン専門学校 教務部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 10月及び3月頃

(開催日時)

第1回 令和元年11月11日 14:00～15:30

第2回 令和2年2月10日 13:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

授業を担当する全ての講師陣が出席する学科会議で課題を抽出し、教育課程編成委員会において企業・業界・学識者で構成される委員の方々の意見を聴取し、それをもとに学科の教育目標、育成人材像について検討し、業界のニーズにあったカリキュラムを策定し、実践している。

・プロと身近に接することが学生のモチベーションにつながるというご意見があり、プロの漫画家に「投稿実習」の授業を担当して貰い、実際の漫画制作・出版社等への投稿のプロセスを実習してもらえよう、教員を採用した。

・漫画家を取り巻く環境も変わり、プロとして活躍するにはセルフプロモーション力が必要というご意見を頂戴し、カリキュラムに「漫画プロモーション」という科目を組み込み、卒業後の進路の幅を広げた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業(プロとして活躍中の漫画家及び雑誌編集者)を招き、プロとして通用するスキルを身につけさせる事が目標。プロの現場の厳しさや、それに対する意識付けを徹底させていく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業(プロの漫画家)を授業の担当教員に当て、カラーイラスト制作や着色漫画原稿の制作を指導してもらい、実際の漫画雑誌に掲載可能なレベルまで完成度を上げさせる。また、セルフプロデュース力を養い、漫画家としてだけでなく、卒業後の進路の幅を広げられるよう指導する。企業が評価、学科の成績判定会議で承認、校長が単位認定。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
漫画プロモーション	広告PRマンガの実践的な練習。職業実践プログラムのワークやマンガ制作をより実践的な形でサポートする。個別での技術指導やメンタルコーチングなども行い即戦力を育てる。	原田ゆうじ(漫画コンサルタント)
投稿実習 I	実習内容は、出版社への投稿を前提とした漫画作品の制作。作品の指導は個人の志向・能力を踏まえた上で、オリジナル漫画作品2作を制作する。	館蜜(漫画家)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針	
<p>学園の研修規程に基づき新任～3年目の教員は、指導力向上のため、大専各主催の「新任教員研修」若しくは「人権研修」を受講させる。専門分野については、関連企業・業界団体の研修・イベントに参加させ、最新知識・技術の習得を図ることを基本としている。クラス担任を担当する教員には、近年増加傾向にある精神的疾患及び発達障がいの問題を抱える学生の指導のため、臨床心理士等による研修会を実施。各教員に専門分野・業界の動向を踏まえ、研究内容の拡充、研究成果の公表、授業への反映に努めるよう求めている。</p>	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
<p>・8月22日～23日 対象:教員4名 1・2年生対象の東京持ち込みツアーを実施し、東京近郊在住のプロの漫画家12名を招いての懇親会を開催。現在の漫画業界における様々な傾向を調査、研究。カリキュラムに組み込んでいる「投稿実習」の授業において、少年、少女、ヤング・青年など漫画雑誌の傾向を把握し、学生作品の傾向及び希望を勘案しながら、方向性を探るために 漫画雑誌の編集者、卒業後プロとして活躍している卒業生、これから入学を考えている高校生の動向、状況を調査し、カリキュラム策定、指導法の研究に直接かかわる内容で、指導力向上を図った</p> <p>・11月7日 出張編集部 対象:教員4名 漫画雑誌の編集者を招き、特別授業及び作品の添削会を開催することで、雑誌の傾向を調査・研究し、カリキュラムに組み込んでいる「投稿実習」「作品制作」の授業における指導力の向上を図る。</p>	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
<p>・6月7日 「クラス担任と臨床心理士の事例検討会」 対象:クラス担任1名 学生カウンセリングを担当している「カウンセリングオフィス五月山の臨床心理士、八木美佳先生」に、新入生、在校生で発達障がい、その他のメンタル面での問題を抱える学生に対する対応、及び指導方法につき、事例検討を実施。担任のカウンセリング力の向上と担任自身のメンタル面での負担の軽減を図った。</p> <p>・6月7日 大専各主催「人権教育研修会3」 対象:教員1名 『留学生担当者研修2-生徒指導』に参加。</p>	
(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
<p>・11月 出張編集部 対象:教員4名 漫画雑誌の編集者を招き、特別授業及び作品の添削会を開催することで、雑誌の傾向を調査・研究し、カリキュラムに組み込んでいる「投稿実習」「作品制作」の授業における指導力の向上を図る。</p>	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
<p>研修名 『『気になる学生への支援』講演会』（連携企業等:常盤会学園大学、山田義則先生） 期間:11月20日(金) 対象:専任教員4名 新入生、在校生で発達障がい、その他のメンタル面での問題を抱える学生に対する対応、及びコロナ禍でのうつ傾向・不安症状等に対するケアにつき、事例を交えた講演会を実施予定。カウンセリング力の向上と教員自身のメンタル面での負担の軽減を図る。</p>	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
<p>学校関係者評価委員として、卒業生の代表である同窓会長、卒業生を継続的に多数採用頂いている企業代表者に加え、地域産業の振興に関する知見者が、学校関係者として「学校関係者評価委員会」に参画し、其々の立場から学校自己評価に対して評価を行う。また学校関係者評価委員から出された意見を基に、今後の学校運営・教育活動の改善を図る。</p>	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育人人材像は定められているか ・学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針、事業計画は定められているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の教育目標、人材育成像は、その学科に対応する業界のニーズに向けて正しく方向付けられているか ・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか ・学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・財務情報公開の体制整備はできているか

(9) 法令等の遵守	・法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか
(11) 国際交流	・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員から拝聴したご意見等をもとに、学校自己評価体制の整備、並びに各部署で今後の学園・学校運営の改善に活用している。

・教育設備、特にIT化の充実を図るため、新入生にPCを購入させ、学内外で自学自習が可能なようにWi-Fi環境を充実させて、教育環境の向上を図った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
井村 良裕	オフィス・トライアド井村アトリエ 代表	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日 2年(再任あり)	卒業生
鵜飼 隆	有限会社タイトルアート 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日 2年(再任あり)	企業等 委員
廣瀬 勇一	株式会社ロイスエンタテインメント	令和元年8月6日～ 令和3年8月5日 2年(再任あり)	企業等 委員
飯田 俊子	元(公財)大阪観光局 常務理事	令和元年6月8日～ 令和3年6月7日 2年(再任あり)	地域及び 業界有識 者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(○ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 令和元年9月公開

URL:<http://www.uedagakuen.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

HP上の「企業の方へ」のページに情報を記載すると共に、年2回(5月、10月)求人依頼をする際に「求人のお願い」という冊子を、2月には成果発表となる作品展のご案内を計6000社に郵送している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校について 教育コンセプト 沿革
(2) 各学科等の教育	学科・コース クリエーター学科漫画コース
(3) 教職員	学校情報
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア・就職
(5) 様々な教育活動・教育環境	学科・コース 施設設備
(6) 学生の生活支援	学校情報
(7) 学生納付金・修学支援	学費 学費支援制度
(8) 学校の財務	財務諸表
(9) 学校評価	学校自己評価報告書、学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

学校及び学園のホームページ URL:<http://www.oscd.jp/> URL:<http://www.uedagakuen.ac.jp/>

補足事項:学校案内パンフレット

授業科目等の概要

(デザイン専門課程漫画学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1		○		デッサンⅠ	物をみる（観察する）、かんじる・かんがえる（分析・構想する）、あらわす（表現する）という創作者としての内なる基本を学ぶ。具体的には、様々なモチーフ（静物、人物、風景など）を目で見て観察し、頭で考え分析・構想し、手によって描き・表現するといったそれら繰り返しの中で、自分の中の循環を高める基礎授業である。	1通	120	4	△	○		○			○	
2		○		クロッキー	1. 絵を描くための基礎トレーニング 2. やさしい美術解剖学 3. 魅力的な線と人体表現 以上3つの体験を授業の基軸とし、毎回多くの人物クロッキーを描く。	1通	120	4	△	○		○		○		
3		○		イラストレーションⅠ	水彩・アクリル絵具・カラーインクなど、それぞれの画材の特徴と表現方法を学ばせる。その他道具の使用法や構図の取り方、資料の使い方、着色の方法を習得させる。	1通	120	4	△	○		○		○		
4		○		描写テクニックⅠ	漫画における様々な効果（集中線・カケアミなど）を、毎回の課題を通じて身につける。後期からは基本的なパースを学び、具体的な背景の描き方を習得させながら、各自の作品に活かせるよう指導していく。	1通	120	4	△	○		○		○		
5		○		作画基礎	漫画作品の中に登場する様々なキャラクター達をいかに生き活きと描けるかで作品の魅力も大きく左右される。この授業は主に『キャラクター』の基本作画について講義、課題を行っていく。	1通	120	4	△	○		○		○		
6		○		作品制作・基礎Ⅰ	多くの新入生にとって、初めての漫画制作。何よりも作品を完成させる事に重点を置く。作品テーマは自由。プロットから完成まで、個人指導を原則とし、クラス担任によるカウンセリングも併せて行う。	1前	60	2	△	○		○		○		

7	○		作品制作・基礎Ⅱ	「作品制作・基礎Ⅰ」で制作した16ページ作品を踏まえ、投稿が可能なページ数で漫画作品を制作させる。人に見せるという事を意識させながら指導していく。	1後	60	2	△	○	○	○								
8	○		漫画演習	前期は漫画における基礎知識の習得、後期からは漫画の画面構成の基本を学ぶ。漫画作品における視覚的な効果、演出について考え、より解り易い見栄えの良い画面を作る。	1通	120	4	△	○	○	○								
9	○		コンピュータ基礎Ⅰ	得とアプリケーションソフトの操作方法を課題作成を通して理解させる。簡単なアニメーションや、カラーイラスト等を制作させていく。	1前	60	2	△	○	○								○	
10	○		コンピュータ基礎Ⅱ	「CLIP STUDIO」を使用し、デジタル漫画を作成する基礎を身につけさせる。人物や背景等の作画方法を習得させ、最終的にデジタル漫画原稿を制作させる。	1後	60	2	△	○	○								○	○
11	○	○	デッサンⅠ	物を見る（観察する）、かんじる・かんがえる（分析・構想する）、あらわす（表現する）という創作者としての内なる基本を学ぶ。具体的には、様々なモチーフ（静物、人物、風景など）を目で見て観察し、頭で考え分析・構想し、手によって描き・表現するといったそれら繰り返しの中で、自分の中の循環を高める基礎授業である。	1前	60	2	△	○	○								○	
12	○	○	コンピュータ基礎Ⅲ	漫画のデジタル化・インターネットメディア化により、今後必要となる自身でのビジネス展開も視野に入れたコンピュータ・ネットワークおよび様々なプレゼンテーションに対応するコンピュータスキルを学ぶ。	1後	60	2	△	○	○								○	
13	○	○	デッサンⅡ	様々なモチーフ（人物、静物、風景など）を目で見て観察し、頭で考え分析・構想し、手によって描き・表現するということ、それら繰り返しの中で、自分の中の創作者としての内部循環を高める。1年次のデッサン及びクローッキー内容を踏まえてより高度な表現を目指す上での基礎となる。	2通	120	4	△	○	○	○								
14	○	○	描写テクニックⅡ	漫画作品における背景処理について、毎回の講義・課題を通じて身につけていく。説得力のある画面づくりが出来るよう、背景・小物等の描写を進めていく。また1年次ではあまり時間のとれなかった、トーンワークにも力を入れる。	2通	120	4	△	○	○	○								

15	○		漫画のカメラワーク	漫画における視覚的な効果、演出を考え、より読者に伝えやすいコマ割り、画面構成の基礎を学ぶ。	2前	60	2	△	○	○	○							
16	○		投稿実習Ⅰ	実習内容は、出版社への投稿を前提とした漫画作品の制作。作品の指導は個人の志向・能力を踏まえた上で行き、オリジナル漫画作品2作を制作する。	2通	120	4	△	○	○	○	○						
17	○		投稿実習Ⅱ	実習内容は、出版社への投稿を前提とした漫画作品の制作。作品の指導は個人の志向・能力を踏まえた上で行き、オリジナル漫画作品2作を制作する。	2通	120	4	△	○	○	○	○						
18	○		作画実習	前期は服の基本的なデザインについて考えて、薄さ、厚さ、シワなどの描き方を検証していく、また石や樹などの自然物の描き方、光の量や種類によってどんな影がつくのか、などキャラクターだけでない作画を身につけて漫画作品に活かしていく。後期は体型や筋肉、アクションポーズなど1歩踏み込んだキャラクターの描き方について描いていく。	2通	120	4	△	○	○	○							
19	○		作品制作	漫画の内容・完成度などプロレベルを意識し、出版社への投稿を前提としたオリジナル漫画作品を制作。課題としては、オリジナル漫画作品2作を制作する。	2通	120	4	△	○	○	○	○						
20	○		制作実習Ⅰ	主に卒業制作の中心的要素となる漫画作品を制作する。制作する漫画作品は出版社への投稿を前提としながらもネット配信等、紙媒体以外での発表も可能なものとする。	2通	120	4	△	○	○	○	○						
21	○		制作実習Ⅱ	作品のプロモーションに必要なデータ制作・漫画をベースとしたあらゆるメディアに対応した作品を制作し自ら発表するための知識を習得し実践する。	2通	120	4	△	○	○	○	○						
22	○		モーションエフェクト	前期では映像制作における基礎知識や映像編集の基本を学習する。後期では学生制作の漫画を素材として映像化しモーションコミックを制作する。	2通	120	4	△	○	○	○	○						
23	○		デジタル漫画演習	画力向上はもちろんの事、自分の表現したい描写を的確に描けるように、デジタルの強みを活かしつつ描き分け等の実技を通して習得していく。	2通	120	4	△	○	○	○	○						
24	○		デジタル漫画演習	画力向上はもちろんの事、自分の表現したい描写を的確に描けるように、デジタルの強みを活かしつつ描き分け等の実技を通して習得していく。	2通	120	4	△	○	○	○	○						

25	○	漫画プロモーション	広告PRマンガの実践的な練習。職業実践プログラムのワークやマンガ製作をより実践的な形でサポートする。個別での技術指導やメンタルコーチングなども行い即戦力を育てる。	2通	120	4	△	○	○	○
26	○	職業実践プログラム	自己理解を深め自分だけの強みを見つけ、企業案件やPR案件など商業誌連載以外での選択肢も選べるようになる授業です。前半を「発見のステージ」、後半を「実現のステージ」として実践を通しながら丁寧に一歩ずつ階段を上がれるロードマップになっている。	2通	60	2	△	○	○	○
27	○	イラストレーションⅡ	1年次で習得した技術を活かし、アナログ作品ならではの表現方法を追求する。世界観や物語性を感じさせる、よりクオリティの高いイラストやカラー漫画の制作。	2後	60	2	△	○	○	○
28	○	デジタルテクニック	【CLIP STUDIO】を使い、1年次に身につけた基礎を元に漫画を制作する。	2前	60	2	△	○	○	○
29	○	漫画立体造型	漫画に必要な「臨場感」「奥行き」「立体感」「リアル感」等の表現を身につけるため、実際に自分で創作したキャラクターを立体のフィギュアとして制作し、三次元の感覚を実感させる。	2後	60	2	△	○	○	○
合計				29科目	1920単位時間					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
課題・試験等に合格し、本校所定の課程を修了すること	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。